

## 薬剤部 DI ニュース

## 医薬品使用に関するのアラート便

## ～ キシロカインショックについて ～

キシロカインを麻酔薬として局所注射した後に患者が、気分不快、血圧低下、呼吸困難に陥ることがあります。このような異常は、キシロカイン（ポンプ）スプレーを喉頭・気管切開部に噴霧した場合や、キシロカインゼリーを注入または塗布した場合（鼻腔内に注入、気管挿管チューブ、膀胱カテーテルに塗布、内視鏡検査で器具に塗布、坐薬挿入時に塗布）でも発生することがあります。これらは一般的にキシロカインショックといわれています。原因としては、アレルギー性ショック（キシロカインおよび添加物に対するアナフィラキシー、アナフィラキシー様反応）、中毒性ショック、疼痛性ショック（迷走神経反射、心因反応）の3つに分類できます。これらの頻度は正確には不明ですが、一般的に局麻剤中毒が多く、過敏症によるショックはきわめてまれです。これらに添加されているエピネフリンによる症状もあり、これらの見分け方を表に示しました。

	症状	重要ポイント
アレルギー性ショック	皮膚が紅潮、発疹 （しばしば膨疹状または蕁麻疹状） 血圧低下、脈拍触知不能、頻脈 （循環抑制が高度になると徐脈） 気管支痙攣・上気道浮腫による呼吸困難 顔面浮腫	投与後数分以内に症状出現 気管支痙攣が起こらないことあり
中毒性ショック	中等度過量 昏迷、多弁、不安、興奮、血圧上昇、 頻脈、頻呼吸、嘔気、嘔吐、耳鳴 重度過量 意識消失、痙攣 血管拡張による血圧低下、 洞性徐脈から心停止・呼吸停止	局麻剤の血中濃度が中等度レベル 以上になってから症状出現 喉頭投与で5分、肋間神経ブロック で10分、硬膜外投与で20-30分 皮膚症状なし 痙攣などの神経症状が血圧低下 より先行する
疼痛性ショック	蒼白、発汗、頻脈、失神 （失神したとき：血圧低下、徐脈、瞳孔散大）	歯科治療中の局麻剤投与直後の異常反応として、最も多い。
添加エピネフリン による症状	頻脈、血圧上昇、不整脈、冠不全	

**坐薬挿入時にはキシロカインゼリーは原則使用しないでください。代わりに「オリブ油」を使用してください。**

リスクマネジメント部会 提言

薬品請求の「オリブ油」はこれまで1本（500 mL）ごとの請求で取り扱っていましたが、潤滑目的で使用するには多量であり、衛生面においても問題が認められたため、薬剤部にて50 mLの小分け包装に調製を行ったものを払い出します。請求は「本数単位」でお願いします。